

献金は「日本の責任」

信者の家庭に高額の献金を強要し続ける統一協会（世界平和統一家庭連合）。協会は本拠のある韓国などでも活動していますが、特に日本の信者を資金源として西日本で収奪を続ける姿の一端が、内部資料などから覗えてきました。

（統一協会取材班）

現在、協会が日本信者の家庭から「400万円」の高額献金を要求している。韓国・済州（チヨンジヨン）での「天苑宮（てんえんぐう）」建築事業。2000年代には、これは別の大建築物「本殿聖地（本宮）」のための献金を、「はつ日本信者に強要つづく」（み言）建築事業。

これに関して、開祖である故・文鮮明（文鮮明）の妻の韓鶴子によるとされる「み言（い

じゆ=発言）」が、統一協会の横浜教会（中央神奈川教団）が03年から05年もろに信者に配っていたカードに生々しく記載されています。

「本最聖地本宮の完成は、○の責任です。頑張って成し遂げて下さい」（○は丸の中に田の字）「○は精誠を尽くすんだよ！」

「全家庭-40K勝利」、「〇〇田と田の字」は日本を描かれたみされます。

カードに記載

日本収容編①
徹底追及

140万円だ。カードに記載された「金家庭-40K」が140万円を指すとする、「K」は献金とみられます。協会の靈感商法で29年に協会側への有罪判決が確定した事件で、法廷で詫問

は、07年以降に統一協会の内情が詳細に記載されたことから、開祖のカーデの内容

は、大な維持資金が、日本信者による献金や靈感商法などの活動に支えられる」とを、統一協会の元幹部が暴露したことがあります。

韓国ほかでの統一協会の元幹部が、元編集長は、日本報道局長を兼任していた協会関連紙「世界日報」の元編集長が、08年、「文藝春秋」に論文「これが『統一教会』の秘密だ」を寄稿しました。

この中で元編集長は、75年

本側が文鮮明に毎月20億

円、「計2000の億円余りを

「納金」してきたと認明。

統一協会は「日本統一教会

員の活動なくして、財政、

資金の調達ができない」と

明かしています。

内部資料に開祖夫妻の「み言」



神奈川県の統一協会の信者に配されていたカーデの写し。表裏それぞれ、開祖の故・文鮮明らの写真などと、開祖の発言が印刷されていたとみられる

協会本部広報局長を兼任していた協会関連紙「世界日報」の元編集長が、08年、「文藝春秋」に論文「これが『統一教会』の秘密だ」を寄稿しました。この中で元編集長は、75年、「送金命令」以来、日本側が文鮮明に毎月20億円、「計2000の億円余りを

「納金」してきたと認明。統一協会は「日本統一教会員の活動なくして、財政、資金の調達ができない」と明かしています。